

直前講習

解答

Z会東大進学教室

直前難関大物理

【3回目】



## 問題

【1】

《解答》

I (1) 図 1 で、斜面方向の加速度を  $a$ 、垂直抗力を  $N_0$  とする。運動方程式より、

$$\text{斜面に平行: } ma = mg \sin 30^\circ$$

$$\text{垂直: } 0 = N_0 - mg \cos 30^\circ$$

$$\therefore a = \frac{1}{2}g \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$N_0 = \frac{\sqrt{3}}{2}mg \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

Q 点に達するまでの時間を  $t$  とすると、

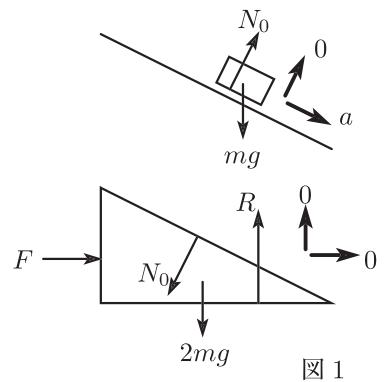


図 1

$$l = \frac{1}{2}at^2 \quad \therefore t = \sqrt{\frac{2l}{a}} = 2\sqrt{\frac{l}{g}} \quad (\because \textcircled{1})$$

(2) 外から加えた力を  $F$  とする(図 1)。

運動方程式の水平成分は、

$$0 = F - N_0 \sin 30^\circ$$

$$\therefore F = \underline{\frac{\sqrt{3}}{4}mg} \quad (\because \textcircled{2})$$

(3) S 点を通過するときの速さを  $v$  とする。エネルギー保存則より、

$$0 + mgh = \frac{1}{2}mv^2 + 0$$

$$\therefore v = \underline{\sqrt{2gh}}$$

(4) 図 2 で、運動方程式の水平成分は、

$$\text{小物体: } m\alpha = -\mu mg$$

$$\text{台: } 2m\beta = \mu mg$$

$$\therefore \alpha = -\mu g, \quad \beta = \frac{1}{2}\mu g$$

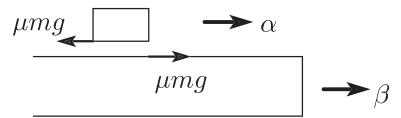


図 2

台に対する小物体の相対加速度は、

$$\alpha - \beta = -\frac{3}{2}\mu g$$

台に対して静止した位置と S 点との距離を L とすると、

$$0^2 - v^2 = 2(\alpha - \beta)L$$

$$\begin{aligned} \therefore L &= \frac{-v^2}{2(\alpha - \beta)} \\ &= \frac{2h}{3\mu} \end{aligned}$$

ST 間の距離がこの値より大きければよい。

II (1), (2) 床から台を見ると、運動方程式の水平成分は

$$\begin{aligned} 2mA &= -N \sin 30^\circ \\ &= -\frac{N}{2} \quad \dots\dots \textcircled{3} \end{aligned}$$

台から小物体を見ると、斜面に垂直な方向について、

$$\begin{aligned} 0 &= N - mA \sin 30^\circ - mg \cos 30^\circ \\ &= N - \frac{1}{2}mA - \frac{\sqrt{3}}{2}mg \quad \dots\dots \textcircled{4} \end{aligned}$$

③, ④より、

$$N = \frac{4\sqrt{3}}{9}mg$$

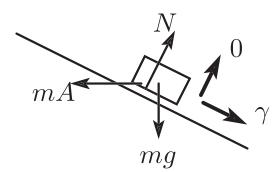
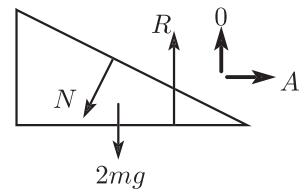


図 3

### 配点

I(1) 6 点 (2) 5 点 (3) 4 点 (4) 6 点 II(1) 4 点 (2) 各 4 点

[2]

《解答》

I (1) AB, AC 両端電位差が一致するので、求める電荷を  $-q$  とすると、

$$\frac{1}{\varepsilon_0} \frac{q}{S} x = \frac{1}{\varepsilon_0} \frac{2Q - q}{S} (d - x) (= V)$$
$$\therefore -q = \underline{\underline{\frac{2(d-x)}{d} Q}}$$

(2) B に面した側

$$\frac{V}{x} = \underline{\underline{\frac{2Q(d-x)}{\varepsilon_0 d S}}}$$

C に面した側

$$\frac{V}{d-x} = \underline{\underline{\frac{2Qx}{\varepsilon_0 d S}}}$$

(3)  $\underline{\underline{\varepsilon_0 \frac{S}{x}}}$

II (1) A の電荷  $2Q$  と C の電荷  $-(2Q - q)$  の和となるから、それを  $q'$  とおいて、

$$q' = \underline{\underline{\frac{2(d-x)}{d} Q}}$$

(2) D→B 向きを正として、

$$F = \frac{1}{2\varepsilon_0} \frac{q}{S} \times \underline{\underline{\frac{2(d-x)}{d} Q}} = \underline{\underline{\frac{2(d-x)^2 Q^2}{\varepsilon_0 S d^2}}}$$

(3)

$$\Delta U = 0 - \underline{\underline{\frac{q'^2}{2\varepsilon_0} \frac{S}{d}}} = \underline{\underline{-\frac{2(d-x)^2 Q^2}{\varepsilon_0 S d}}}$$

III (1) 両端電位差の値が両コンデンサーで等しくなり、電荷の移動が完了したとき抵抗でのジュール熱によるエネルギー消費が最大となる。このとき、

$$\frac{q_1}{C_1} = \frac{q_2}{C_2}$$

電荷保存より、

$$q_1 + q_2 = Q_1 + Q_2$$

$q_2$  消去で、

$$q_1 = \frac{C_1}{C_1 + C_2} (Q_1 + Q_2)$$

(2) (1) と同様に、

$$\begin{aligned} \frac{q_1}{C_1} &= \frac{q_2}{C_2}, & q_1 + q_2 &= |Q_1 - Q_2| \\ \therefore q_1 &= \frac{C_1}{C_1 + C_2} |Q_1 - Q_2| \end{aligned}$$

(3) (2) で、

$$q_2 = \frac{C_2}{C_1 + C_2} |Q_1 - Q_2|$$

よって減少したエネルギーは、

$$\left( \frac{|Q_1|^2}{2C_1} + \frac{|Q_2|^2}{2C_2} \right) - \left( \frac{|q_1|^2}{2C_1} + \frac{|q_2|^2}{2C_2} \right) = \frac{(C_1 Q_2 + C_2 Q_1)^2}{2C_1 C_2 (C_1 + C_2)}$$

減少分は「抵抗におけるジュール熱として消費された。」

### 配点

I(1) 4 点 (2) 完答 4 点 (3) 4 点

II(1)～(3) 各 3 点

III(1) 3 点 (2) 3 点 (3) 完答 6 点

【3】

《解答》

I (1) 圧力を  $P_0$  とする。状態方程式は、

$$P_0(2SL) = nRT_0$$

$$\therefore P_0 = \frac{nRT_0}{2SL} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

(2) ピストン A に働く力のつり合いより、ばね定数を  $k$  とすると、

$$0 = P_0S - kL$$

$$\therefore k = \frac{P_0S}{L} = \frac{nRT_0}{2L^2} \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

II (1) 気体の圧力は  $P_0$  のまま変化せず、ばねの長さも  $2L$  のまま変化しない。気体の体積が  $\frac{3}{2}$  倍になったから、温度も  $\frac{3}{2}$  倍になる。よって、 $\frac{3}{2}T_0$ 。

(2) 内部エネルギーの変化量  $\Delta U$  は、

$$\Delta U = \frac{3}{2}nR\left(\frac{3}{2}T_0 - T_0\right) = \frac{3}{4}nRT_0$$

気体が大気にした仕事  $W$  は、

$$W = P_0(3SL - 2SL) = \frac{1}{2}nRT_0 \quad (\because \textcircled{1})$$

気体が得た熱量  $Q$  は、

$$Q = \Delta U + W$$

$$= \underline{\frac{5}{4}nRT_0}$$

**別解** 定圧モル比熱  $C_p = \frac{5}{2}R$  を用いると、

$$Q = n \cdot \frac{5}{2}R\left(\frac{3}{2}T_0 - T_0\right) = \underline{\frac{5}{4}nRT_0}$$

III 十分時間が経過すると、左右の気体の圧力は等しくなり、ばねは自然長になる。エネルギー保存則、

$$(内部エネルギー) + (弾性エネルギー) = \text{一定}$$

より、求める温度を  $T$  とすると、

$$\begin{aligned} \frac{3}{2}nRT_0 + \frac{1}{2}kL^2 &= \frac{3}{2}nRT + 0 \\ \therefore T &= T_0 + \frac{kL^2}{3nR} \\ &= \underline{\frac{7}{6}T_0} \quad (\because \textcircled{2}) \end{aligned}$$

IV (1) 気体の圧力を  $P$ 、温度を  $T_1$  とすると、

$$P \cdot 3LS = nRT_1$$

ピストン A に働く力のつり合いは、

$$0 = k \cdot 2L - PS$$

2式より、

$$T_1 = \frac{6kL^2}{nR} = \underline{3T_0}$$

(2) 内部エネルギーの変化量  $\Delta U$  は、

$$\Delta U = \frac{3}{2}nR(3T_0 - T_0) = 3nRT_0$$

ばねにした仕事  $W$  は、

$$W = \frac{1}{2}k(2L)^2 - \frac{1}{2}kL^2 = \frac{3}{4}nRT_0$$

気体が得た熱量  $Q$  は、

$$\begin{aligned} Q &= \Delta U + W \\ &= \underline{\frac{15}{4}nRT_0} \end{aligned}$$

### 配点

I(1) + (2) 各 4 点    II(1) + (2) 各 5 点    III 6 点    IV(1) + (2) 各 5 点

PT  
直前難関大物理  
【3回目】



会員番号		氏名	
------	--	----	--